◆団体基本情報

No.	17	種別	公益財団法人	団体名	公益財団法人仙台市市民文化事業団		
所在地	〒981-0904　仙台市青葉区旭ケ丘三丁目27番5号						
電話番号	022-276-6778		FAX番号	022-276-2108		所管部局	文化観光局 文化振興課
団体ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ	https://ssbj.jp/						
代表者職氏名	理事長　佐々木 洋			設立年月日	昭和61年10月1日		
資本金・基本財産	1,103,136　千円		市の出捐額（割合）	1,000,000　千円　（　90.7　%）			
設立目的	文化芸術の振興，郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い，もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。						
事業概要	市民の文化創造及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成，普及啓発及び情報発信，交流及び協働の促進，資料の収集・保管及び調査研究，生涯学習の支援，文化施設及び生涯学習施設の管理運営，その他目的を達成するために必要な事業。						
評価対象決算期	令和2年4月1日　～　令和3年3月31日						

◆人員等の状況

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①常勤役員数	2　人	3　人	3　人
うち市派遣	0　人	0　人	0　人
市退職者	2　人	3　人	3　人
②常勤役員平均年齢	62.0 歳	63.0 歳	64.0 歳
③常勤役員平均年間報酬	5,888　千円	5,320　千円	5,341　千円
④職員数	151　人	151　人	145　人
うち市派遣	1　人	1　人	1　人
市退職者	11　人	8　人	8　人
⑤職員平均年齢	44.3　歳	44.1　歳	45.0　歳
⑥職員平均年間給与	4,880　千円	4,972　千円	5,070　千円

◆主要財務データ

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①当期経常増減額	△ 2,884　千円	△ 3,444　千円	△ 6,094　千円
②当期経常外増減額	0　千円	0　千円	36　千円
③当期一般正味財産増減額	△ 2,884　千円	△ 3,444　千円	△ 6,058　千円
④一般正味財産期末残高	70,744　千円	67,300　千円	61,242　千円
⑤指定正味財産期末残高	1,138,568　千円	1,118,248　千円	1,103,136　千円
⑥正味財産期末残高	1,209,312　千円	1,185,548　千円	1,164,378　千円
⑦長期借入金残高	0　千円	0　千円	0　千円

◆市の財政的関与

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
①市からの補助金	524,188　千円	722,567　千円	620,157　千円
②市からの委託料（指定管理料含む）	1,552,839　千円	1,590,747　千円	1,545,436　千円
③市に対する収入依存度	91.31　%	91.46　%	97.48　%
④市からの借入金	0　千円	0　千円	0　千円
⑤市からの債務保証に係る債務残高	0　千円	0　千円	0　千円
⑥市からの損失補償に係る債務残高	0　千円	0　千円	0　千円

◆主要事業一覧及び概要

事業名	事業概要	令和2年度事業費
せんだいメディアテーク管理運営事業	平成29年度から令和3年度まで仙台市教育委員会から指定管理の指定を受けて，施設の管理運営を行った。	585,486　千円
仙台市青年文化センター管理運営事業	平成29年度から令和3年度まで仙台市から指定管理の指定を受けて，施設の管理運営を行った。令和2年10月からは全館閉館して行われる大規模改修工事への対応を行い，工事開始前の物品移転及び臨時事務所の開設を行った。	300,566　千円
仙台文学館管理運営事業	平成29年度から令和3年度まで仙台市から指定管理の指定を受けて，施設の管理運営を行った。	184,548　千円
多様なメディアを活用した文化芸術創造支援事業	コロナ禍により文化芸術活動を行うことが難しい状況下で，活動の縮小や停止を余儀なくされている地域の文化芸術関係者の活動継続を支援する助成事業を行った。	63,239　千円
実演芸術の公演会場費助成事業	コロナ禍による屋内施設の収容率50%以内という制限により開催が困難となっている文化芸術公演の再開を促進するため，主催者に対し会場使用料の一部を助成した。	73,582　千円

◆経営評価の総括

項目	外郭団体による総括	所管局によるコメント
１．公益的使命・市が期待する役割への対応	コロナ禍による制約を受けながらも，財団設立から30年を経て培ったノウハウやネットワークを駆使して，公益的使命や基本方針に基づいた多様な事業開発，文化芸術の普及啓発や人材育成，文化芸術関係者や市民活動の支援・助成，安全に安心して利用できる施設管理運営等に取り組んだ。	設立以来積み重ねてきたノウハウを活かしコロナ禍においても，文化芸術の普及啓発や人材育成，市民活動の支援等に努められた。引き続き市民活動の支援・助成に取り組んでいただきたい。
２．業務・組織管理	財団が有する経営資源を効果的に活用できるよう，組織間及び施設間での連携強化を図り，地域文化を担う人材との連携を進めながら各事業に取り組んだ。人材育成については，あらたな社会要請に応える劇場マーネジャー育成を目的とする政策研究大学院大学の研修事業に職員2名を派遣するなど独自の研修に加え，仙台市関係の研修制度も活用して効率的な職員のスキルアップを図った。業務管理については，質の高いサービスの提供と適切な財団運営を目指し，必要な改善等に努めた。	今後も組織間及び施設間での連携体制の強化に努め，人材育成への取り組みを継続的に実施しながら，適切な組織運営・事業展開に努めていただきたい。
３．財務状況	近年の金利低下による基本財産運用益の減少が常態化する中，基本財産の適切な運用を行った。また，コロナ禍による事業中止の赤字を出来るだけ減らすため，感染状況を注視しながら消耗品購入等のタイミングを調整したり，中止によって不要となる部分を調整したりすることで，経費削減に努めた。コロナ禍による収入減への対応については，国及び助成団体からの助成・補助，企業協賛金等の外部資金の活用を積極的に進めるとともに，受益者負担の推進や寄附受け入れを継続している。	コロナ禍による事業中止の影響を受け，大幅な収入減となり難しい財政状況であるが，今後も基本財産の適切な運用を行い，外部資金の獲得にも引き続き積極的に取り組んでいただきたい。
４．今後の方向性及び課題	コロナ禍によって文化芸術を取り巻く環境が大きく変わり，未だ先の見えない状況が続いている。こうした状況下における文化事業の在り方や新たな実施手法について検討を継続し，財団が長年培ってきたノウハウやネットワーク等を駆使して市民の文化活動の支援を進めてまいりたい。また，令和3年度中に新たな基本指針と中期経営計画を策定し，仙台市の文化振興施策と緊密に連携しながら，健全かつ適切な組織運営を継続してまいりたい。	新型コロナウイルス感染症の影響により，経済社会状況は大きく変化している。この変化にも対応した新たな基本指針と中期経営計画を策定し，引き続き本市と連携を図りながら公益性の高い事業実施，信頼性の高い組織運営に努めていただきたい。